

おお大勝利

平成 20 年度山東サッカー部報第 12 号 (7 月 22 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

選手権 鶴東に痛恨のPK負け

7 月 19 日 (土)、20 日 (日) 天童の県総合運動広場第 3 ピッチにて、選手権の一次予選が行われました。選手権は「冬の高校サッカー選手権」というあだ名がついている通り、冬の大会です。よって選手権予選を秋口早くから実施しなければならないのですが、秋には新人戦の地区大会や県新人大会もあり、日程が立て込んでいることから、一次予選を 7 月にしてしまうスケジュールを、6 年ほど前から採用することとなりました。降雪のない他県では新人戦自体を 1 月に設けて、選手権と新人戦の日程がかぶらない配慮をし、秋は選手権の予選一本にしぼっています (東北新人は 2 月)。山東は県総体の結果シード校となり、2 回戦から出場。鶴岡東と長井の勝者との対戦という組み合わせとなっておりました。実際の対戦相手は順当に長井の新人チームを破った鶴岡東。鶴岡東は近年全国大会出場から遠ざかっているものの、県リーグ 1 部在籍の強豪チーム。対して山東新人チームは「失うものが何もない」強みを生かし、昨年度と同様、3 年生チームの「邪魔」をしたいところ。

ピッチはモンテのトップがいつも練習している天然芝の第 3 ピッチ。最高の環境がそろいました——どうも最近天然芝・人工芝の試合が多くなり、選手が芝でやれる「ありがたみ」を忘れていたようではありません、これらを教えていくのも顧問の仕事でしょう——。山東は序盤、硬い立ち上がりで自分たちのミスで押し込まれる展開となる。DF の頑張りで何とかしのぎつつ、ボランチ惣太の展開力、FW 一生の突破力でゴールに迫る。前半は 0-0。

後半も敵 FW の力強い突破に苦しめられ、押し込まれる時間が多い。また山東は体力が単純に不足しており、攻めた後に戻り切れなかったり、攻めに転じたときの上がりが遅かったりで、苦しい試合展開に。10 分過ぎだったか、中盤でのパスをカットされ、速攻を受け、それを止めきれずに崩され失点を許す。しかしこの日ばかりは山東イレブンはずを下を向かず、声を掛け合い、反撃のための心の準備を怠らなかった。そうしたあきらめない姿勢が良かったか、20 分あたりで、DF と GK の間に落ちたルーズボールを、**一年 FW 市村**が GK の頭上をふわりと浮かせた技ありループシュート。同点に。その後も一進一退が続き、PK 合戦へ。

昨年度、新庄東に勝利したのと同じ展開に、「もしや」という気にさせられる。顧問が浮ついた気持ちだったから勝利の女神に嫌われたか、PK 合戦は惜しくも 4-5 で負け。敵は PK 慣れしている印象で、相当 PK の練習を積んでいたように感じられました。鶴東のキッカーのみならず、GK の PK に対する反応にも素晴らしいものがありました。

この試合を振り返ってみると、PK 合戦負けということもあり、「逃した魚は大きかった」と悔しい気持ちにさせられます。ただ、山東は引き分けで PK 合戦に持ち込むのがやっとな

いった状況でしたので、力不足は否めませんでした。特に、足をつる選手が続出し、これまで厳しい試合をスタメンとして戦い抜いた選手が少ない弱さが露呈したことは、今後の練習メニューに大きな影響を与えることでしょう。夏場にいかに力を蓄えるか、ご期待ください。

夏のスケジュールについて

●OB戦（8月9日）

山東サッカー部夏の風物詩、サッカーフェスティバルが今年も開催されます。以前は8月第一土曜日と決まっていたのですが、現役生が PUMA CUP（例年8月1日～4日）に参加することになって以来、第一土曜日とその大会とかぶった場合、第二土曜日にずらして開催されております。今年は第二土曜日の9日に開かれます。卒業したばかりの学年や、引退したばかりの3年生にとっては新人チームを「揉む」いい機会です。また卒業してしばらく経つ先輩にとっても、現役生にぶつかり、その後、ビールとモツ煮をほおぼる伝統行事となっております。

後記

7月14日に、現役山東サッカー部員を多く輩出している山大附中サッカー部と練習試合を行いました。県中体連に向けた調整役として山東に白羽の矢が立ったわけです。そしてこのたび山大附中が見事県初優勝を果たしました。佐藤マネの弟も主力として出場しました。おめでとう附中、来年待ってるよ！